

# 提 言 書

かごしま県民交流センターの在り方について

平成 2 7 年 3 月

かごしま県民交流センター在り方検討委員会

## 目 次

はじめに .....	1
1 検討の前提となる事項	
(1) 基本理念 .....	1
(2) 現在の施設の状況 .....	2
① 施設概要 .....	2
② 利用状況 .....	2
③ 収支状況 .....	4
2 検討結果	
(1) 基本的な考え方 .....	4
(2) 見直しの方向性 .....	4
① 全館に共通的なこと .....	5
② 各階別のこと .....	5
(3) 見直しの概要（提案） .....	6
① 1階 .....	6
② 2階 .....	7
③ 3～5階 .....	7
④ 6階 .....	7
⑤ その他 .....	7
(4) 見直しによる効果 .....	7
(5) 運営の在り方など .....	8
おわりに .....	9
参考資料	
・ 1階イメージ図 .....	10
・ 6階イメージ図 .....	11
・ 「かごしま県民交流センター在り方検討委員会」委員名簿 .....	12
・ かごしま県民交流センター在り方検討委員会の検討経過 .....	13

## はじめに

かごしま県民交流センターは、平成15年4月に開館しており、県民ホールや研修室など人々が自由に利用できる場所を提供するとともに、周囲に快適な歩行者空間を確保することによって、多くの人々が気軽に訪れることができるよう、周辺地区のにぎわいづくりに配慮されています。また、敷地内に県民がくつろげる県政記念公園を整備し、周辺地区住民の憩いの場となる空間づくりも行われており、上町地区の振興や地域交流の活性化につなげています。

鹿児島県においては、同センターが開館後10年が経過し、展示・案内標示等の劣化などにより、交流空間としての機能が損なわれていたこと、周辺に「鹿児島市サンエールかごしま」や「かごしま環境未来館」など類似の機能を有する施設が整備されていること、同センターが10月末に本県で開催される国民文化祭の主要な会場になっていることなどから、これまでの成果や利用実態を踏まえ、同センターの見直しについて検討を行うこととしたところです。

なお、1階交流サロンについては、交流空間としての機能が生かされておらず、統一感も失っている状況が顕著であったことから、鹿児島県において、平成26年中に先んじて、本棚や各種の掲示物を見直し、それらを撤去して、クリアランスを行っています。

本委員会は、同センターの見直しに関して、同センターの公共空間としての在り方や施設全体の統一感の再生について、専門家の立場から検討するために設けられました。

これまで、平成26年10月から4回にわたり実地調査や意見の交換を重ねてまいりましたが、この度、以下のとおり意見を集約し、提言書として取りまとめたので、提出します。

## 1 検討の前提となる事項

かごしま県民交流センターの在り方の検討を行うにあたり、その前提となる基本理念及び現在の施設の状況について、以下のとおり確認する。

### (1) 基本理念

平成9年12月に策定された「県庁舎跡地利用基本計画」において、かご

しま県民交流センターの基本理念は、以下のとおり掲げられている。

- 多くの県民が、親しみ、楽しみ、様々な出会いと体験ができる場とする
- 鹿児島県の歴史や文化に配慮したものとする
- 上町地区の発展にも配慮し、県勢発展に役立つものとする



「県民が、親しみ、出会い、交わるオアシス空間をめざして！」

## (2) 現在の施設の状況

### ① 施設概要

かごしま県民交流センターは、地上6階、地下2階の本館と、公園及び県政記念館の県政記念公園で構成され、生涯学習、国際交流、男女共同参画の推進、介護の知識等の習得及び共生・協働の地域社会づくりに関する活動促進の機能からなる複合施設である。

6階	視聴覚フロア（映像・音楽鑑賞ブースなど） 生命と環境の学習館 展望回廊
5階	視聴覚フロア（制作演習室等） 県警本部被害者支援室，（社）かごしま犯罪被害者支援センター 学習・研修室（調理実習室，絵画制作室，陶芸制作室など）
4階	放送大学鹿児島学習センター 学習・研修室（大研修室，小研修室など）
3階	学習・研修室（大研修室，中研修室，小研修室など）
2階	多目的ホール（大ホール，中ホール） 展示ロビー，介護実習室，事務室，喫茶コーナーなど
1階	交流サロン，共生・協働センター，パスポート窓口 県民ホール，福祉用具展示室など
地下1，2階	駐車場（530台），機械室

### ② 利用状況

平成15年4月の開館以降、利用者は、ほぼ年間100万人超であり、平成25年度は109万7千人余りとなっている。

### 過去5年度の利用者数

年 度	利用者数
平成21年度	1,129,990 人
22年度	1,175,097 人
23年度	1,160,573 人
24年度	1,126,855 人
25年度	1,097,336 人

また、同センター内の各施設の利用率は、開館以降、平均で年71.1%で、平成25年度は71.6%となっている。

ホールや研修室の利用率は高いが、陶芸制作室、パソコン演習室や介護実習室などの利用目的を限定した施設の利用率は低い状況である。

絵画制作室、調理実習室や工芸室などは、利用目的以外にも利用されており、また、1日利用でも1時間利用でも同様に利用率に反映されていることから、利用率が高めである。

5階西棟のビデオ編集室などについては、生涯学習関係のみの利用に限定されていることから利用率は低い。

6階「生命と環境の学習館」においては、現在29ある展示物のうち、故障等により「使用不可」のものが8台、その他12台に不具合が生じており、修理が必要な状況である。

### 主な施設の利用率

(単位：%)

施設名	平均	25年度	施設名	平均	25年度
県民ホール	76.7	79.9	絵画制作室	78.4	83.5
大ホール	84.6	87.4	陶芸制作室	45.4	53.7
中ホール	86.2	89.3	調理実習室	72.0	69.6
大研修室1	86.6	90.6	工芸室	75.5	74.1
中研修室1	85.4	87.1	和研修室	49.2	46.3
小研修室1	94.1	95.8	ビデオ編集室	26.3	16.8
スタジオ	94.1	98.1	パソコン演習室	29.1	34.0
リハーサル室2	89.0	79.6	介護実習室	37.7	34.6

### ③ 収支状況

施設使用料などの歳入約1億円超に対し、光熱水費や施設維持管理などの業務委託費の歳出が最近は約3億円超となっている。

なお、施設使用料は、公共性や県民へのサービスなどの観点から低廉に設定されている。

過去5年度の決算額 (単位：千円)

年 度	歳入(A)	歳出(B)	差額(A-B)
平成21年度	119,730	292,792	△173,062
22年度	109,714	293,307	△183,593
23年度	100,749	297,352	△196,603
24年度	103,995	310,607	△206,612
25年度	103,425	319,625	△216,200

## 2 検討結果

検討の前提となる基本理念や現在の施設の状況のほか、利用者の意見などを踏まえ、見直しに関する基本的な考え方や求められる機能等について検討を行ったので、その結果を以下のとおり示す。

### (1) 基本的な考え方

開館後10年が経過し、施設の利用実態等を分析した上で在り方を検討し、利用率の高いホールや研修室など既存施設の優れた機能は充実・発展させ、利用率が低い施設や特定の目的に限定した施設、機材・展示物の不具合・陳腐化など課題や不足は大胆に見直すこととした。

なお、当初の基本理念である「県民が親しみ、出会い、交わるオアシス空間をめざして！」は、かごしま県民交流センターとしてふさわしいものであり、継承していくことに問題はない。

### (2) 見直しの方向性

見直しの方向性について、全館に共通的なこと、各階別のことに分けて以下のとおり示す。

## ① 全館に共通的なこと

- ・ 県民の誰からも親しまれ、利用されるものにする。
- ・ かがしま県民交流センターとして、人が出会い、交わる役割を果たす。
- ・ 全館を統一されたコンセプトのもとで再生を図る。
- ・ 共生・協働の時代であり、県民の参加・参画の仕組みを取り込む。
- ・ 黎明館など付近一帯の文化ゾーンにふさわしいものにする。
- ・ 洗練された空間を次代を担う子ども達に見せて感性を養う。
- ・ 利用や運営にあたって、県民や専門家等の参加を得て、展示や掲示のルールを定めるなど、一定の水準を維持する。



### ● 全体コンセプト

「県民が、親しみ、出会い、交わるオアシス空間をめざして！」

## ② 各階別のこと

### ○ 1階

- ・ かがしま県民交流センターの玄関であり、シンボル空間とする。
- ・ 県民の誰からも親しまれ、利用しやすい仕掛けを工夫する。
- ・ かがしまの暮らしや文化、人の営みなどの展示・発信を行う。
- ・ 県外客も含め来訪者をもてなす、憩いの役割を持たせる。
- ・ 県民の参加・参画、協働の仕組みを取り入れる。



### ● 1階コンセプト

「かごしまの暮らしや文化に親しみ、  
県民が参加して創る公共空間ーかごしま交流ラウンジ」

### ○ 2～5階

- ・ 様々なタイプのホール・会議室等各面での利用が多いことから、会議やイベントなどホール機能の充実を図る。
- ・ コンベンション機能の特徴は生かす。

## ○ 6階

- ・ 「生命と環境の学習館」については、「使用不可」や「不具合」の展示物が多いことから、廃止する。
- ・ 6階については、天井が低く外光が入りにくい構造であることから、現在の形状を活かす。
- ・ 文化・芸術の拠点として活用する。
- ・ 洗練された空間を創出する。
- ・ 館内に親子を対象とした施設がないことから、親子で楽しめる空間を創出する。
- ・ 展望回廊については、眺望がよいこともあり、利用が促進されるよう工夫する。

### (3) 見直しの概要（提案）

前述の見直しの方向性を踏まえ、具体的な活用例を検討してみた。県において、今後の検討の参考としていただきたい。

#### ① 1階

##### 【交流サロン】

##### ○ 東棟エリア

###### 「かごしまのパフォーマンスエリア」

- ・ 県内各地の祭り、行事、イベントに関するオブジェの展示等を行い、鹿児島島の今を伝える。(暮らしや人の営み)
- ・ 経済活動、産業活動などから鹿児島の特徴を生かした生産物の展示等を行う。(生産活動)
- ・ 公関係の講座や、セミナーなどを開催する。

##### ○ 西棟エリア

###### 「ラウンジカフェエリア」

- ・ 県民の出会いや交わりを支えるカフェ機能を新設する。
- ・ カフェの一角を利用してかごしまの暮らしや文化の紹介（ステージ、展示パネル等）を行う。



### 【共生・協働センター】

- ・ 共生・協働センターについては、全国4位(人口10万人あたり、平成27年1月末)まで増加したNPO法人や、経営感覚に優れた地域コミュニティ等の活発な活動・事業展開に関する情報発信拠点としての機能を新たに加えるため、プレゼンスペース、貸しブースを新設する。

#### ② 2階

- 福祉用具展示室は、2階の現介護実習室に集約し、在宅介護を活用した生活スタイルの提案、幅広い世代に対する介護の知識・技術の普及啓発を行う。
- 喫茶コーナーを1階に移転し、喫茶コーナー跡はリフレッシュスペースに変更する。

#### ③ 3～5階

- 絵画制作室や陶芸制作室など特定目的の研修室を多目的に利用可能な研修室等へ転用する。

#### ④ 6階

- 県内に企画展示空間が少ないことから、県民のアート、文化への興味を喚起し、創作意欲を醸成するフレキシブルなギャラリーを新設する。
- かがしま県民交流センターの主な機能に関する情報や、県内の地域情報、歴史・文化情報などを来館者に提供する情報サロン、ギャラリーとリンクしたエキシビジョンシアターや、大人と子どもが楽しみながら過ごせる交流の場を新設する。
- 必要な視聴覚施設の機能を5階に集約する。

#### ⑤ その他

- 全館におけるサインや掲示について、統一的なルールを定め、県民が利用しやすい施設にする。

### (4) 見直しによる効果

- 1階については、誰もが訪れやすいかがしま県民交流センターとなり、観

光スポットとしての機能や利用者の滞留空間が創出されることにより、県民にとって自分たちのかごしま県民交流センターであるという意識の涵養にもつながる。

- 2～5階については、会議、イベント等での利活用のさらなる促進につながる。
- 6階については、新たな文化機能や洗練された空間が創出され、子どもから高齢者までの様々な世代に利用される。

## (5) 運営の在り方など

ハード面の見直しにとどまらず、県内外の多くの方々に利用していただくためには、ソフト面での充実も必要である。

- 1階の見直しの方向性にもあるように、「県民の参加・参画、協働の仕組みを取り入れる」という観点から、「県民との協働による運営委員会（仮称）」を設置する。
  - その委員会においては、主に以下のことを行う。
    - ・ 掲示や展示等のルール作り
    - ・ パフォーマンスエリアやギャラリーの企画・運営等を始めとした、全館の運営についての助言等
- 本県を訪れた外国人旅行者等の円滑な移動や快適な滞在に資するため、かごしま県民交流センターにおけるWi-Fi環境の整備も必要である。
- 収支面については、6階のギャラリー新設や利用率の低い既存施設の貸会議室への転用などにより、収入の増を図るとともに、LED照明活用により、引き続き収支改善の努力を期待する。
- 利用頻度が少ない能舞台についても、現代音楽など新たな活用を含め、さらなる活用に努められたい。

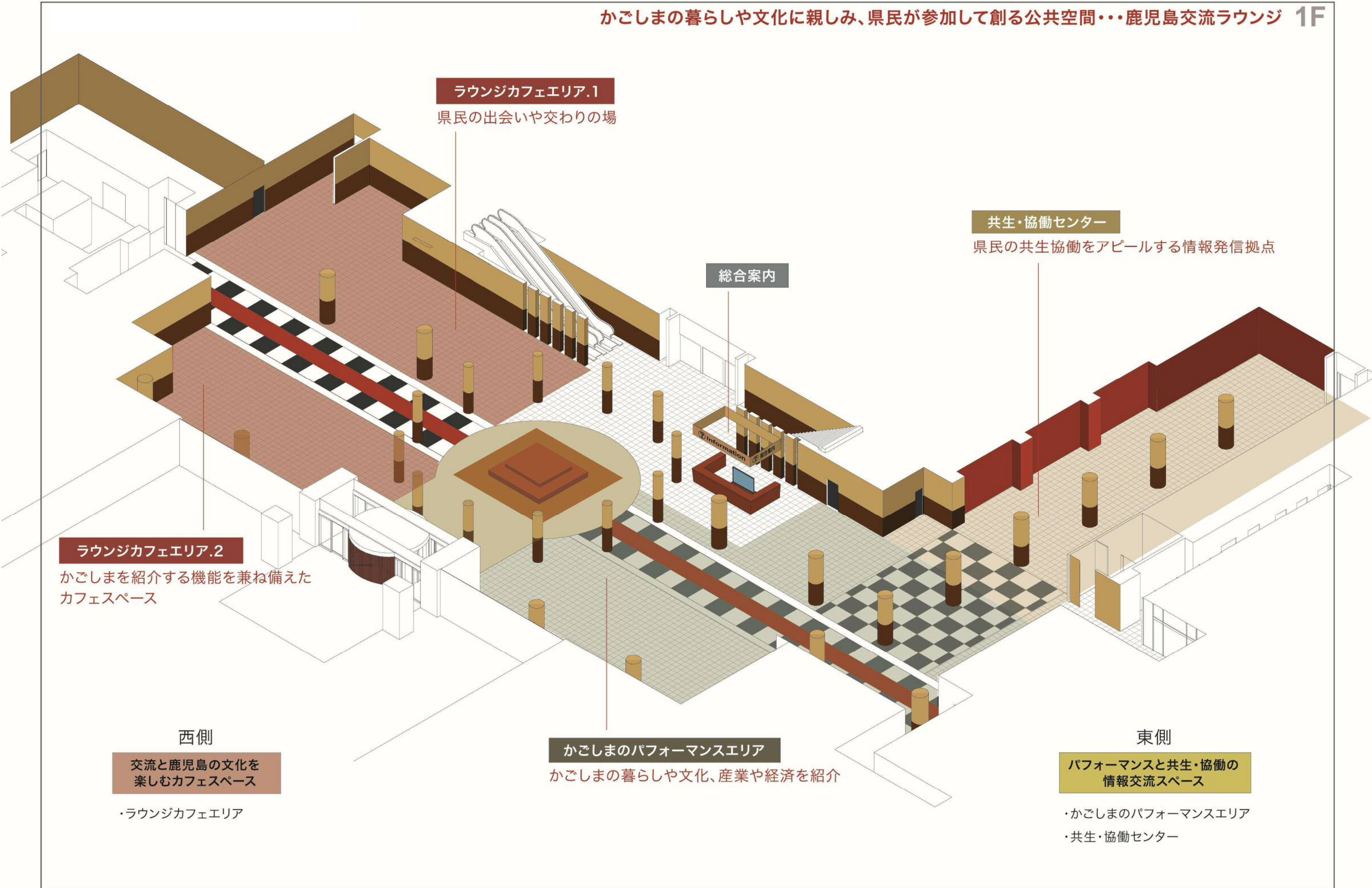
## おわりに

かごしま県民交流センターについては、施設の利用実態等を踏まえ、基本的な在り方の方向性について検討を重ねてきました。

今回検討した同センターの在り方については、子どもから高齢者、男女、外国人など、多くの方々が親しみ、出会い、交わる施設づくりが求められているところであり、今後は、本提言を活かして、鹿児島県においてより具体的に検討され、公共空間として利活用されるよう期待します。



かごしまの暮らしや文化に親しみ、県民が参加して創る公共空間・・・鹿児島交流ラウンジ 1F



**ラウンジカフェエリア.1**  
県民の出会いや交わりの場

**共生・協働センター**  
県民の共生協働をアピールする情報発信拠点

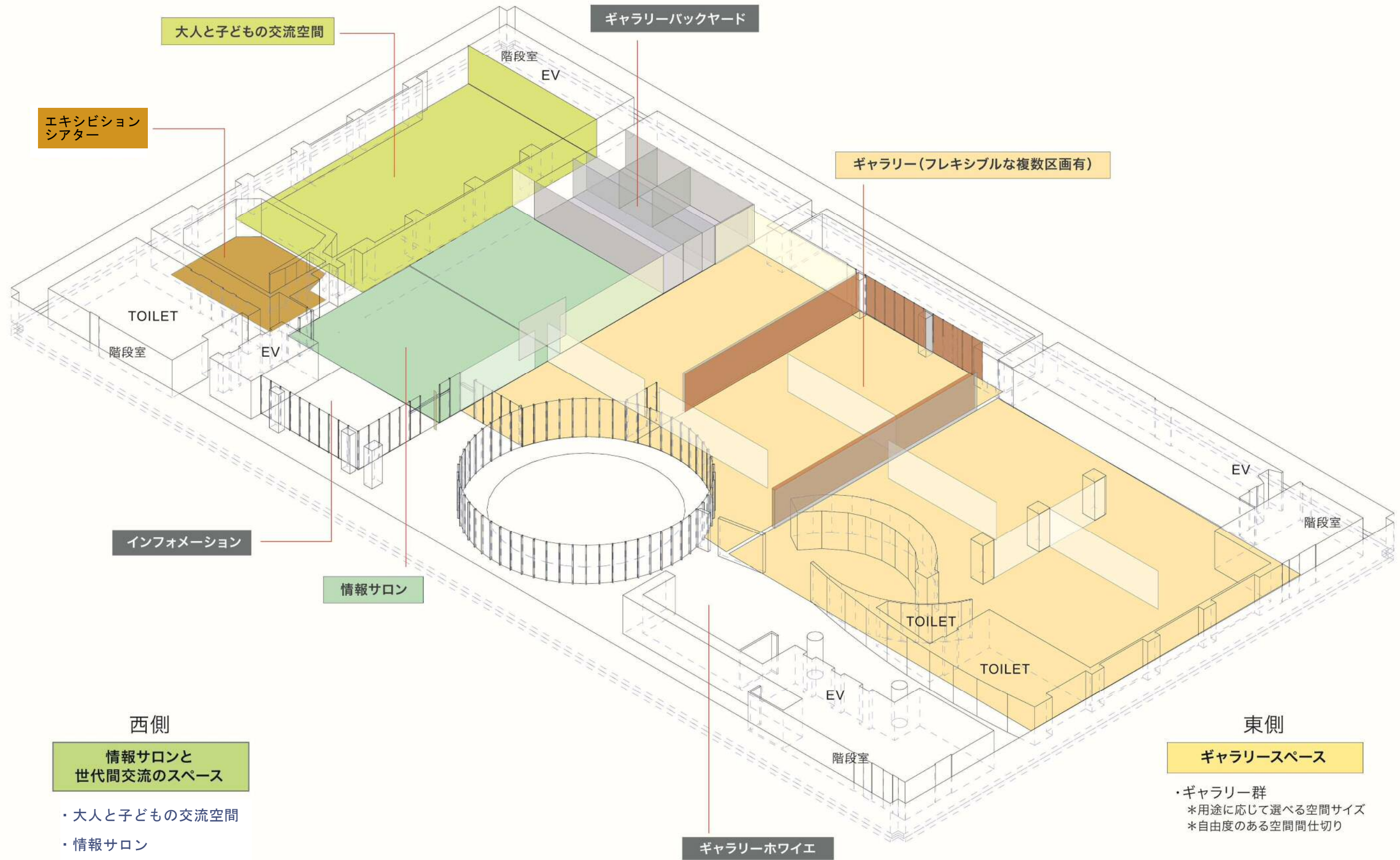
**総合案内**

**ラウンジカフェエリア.2**  
かごしまを紹介する機能を兼ね備えた  
カフェスペース

**かごしまのパフォーマンスエリア**  
かごしまの暮らしや文化、産業や経済を紹介

**西側**  
交流と鹿児島の文化を  
楽しむカフェスペース  
・ラウンジカフェエリア

**東側**  
パフォーマンスと共生・協働の  
情報交流スペース  
・かごしまのパフォーマンスエリア  
・共生・協働センター



西側  
情報サロンと  
世代間交流のスペース

- ・大人と子どもの交流空間
- ・情報サロン
- ・エキシビションシアター

東側  
ギャラリースペース

- ・ギャラリー群
- \*用途に応じて選べる空間サイズ
- \*自由度のある空間仕切り

かごしま県民交流センター在り方検討委員会 委員名簿

役 職 名	氏 名
委員長 鹿児島大学名誉教授	みやさこ としみつ 宮 廻 甫 允
有限会社オフィスフィールドノート取締役	すなだ こうき 砂 田 光 紀
株式会社丸屋本社代表取締役社長	たまがわ めぐみ 玉 川 恵
鹿児島県建築士事務所協会会長	どうじょう まさひろ 東 條 正 博
LEAP出版株式会社代表取締役社長	にし みやび 西 み や び
かごしま県民交流センター館長	はっとり まさと 服 部 正 人

## かごしま県民交流センター在り方検討委員会の検討経過

年 月	
平成26年 10月29日	第1回かごしま県民交流センター在り方検討委員会 ・ 施設の現状確認 ・ 基本的な考え方の検討
平成26年 11月27日	第2回かごしま県民交流センター在り方検討委員会 ・ 見直し（案）の検討 1階の整備，2～5階（一部6階を含む）の在り方を中心に検討
平成27年 1月29日	第3回かごしま県民交流センター在り方検討委員会 ・ 見直し（案）の検討 2～5階（一部6階を含む）の在り方（用途見直し以外）及び6階の在り方を中心に検討
平成27年 3月23日	第4回かごしま県民交流センター在り方検討委員会 ・ 提言の取りまとめ



